



オオタカを どうするか

<主催>

公益財団法人日本自然保護協会
公益社団法人日本造園学会 生態工学研究委員会

<共催>

明治大学専任教授連合会

<後援>

国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)

ヒトと動物の関係学会

公益財団法人日本野鳥の会

認定NPO法人 自然環境復元協会

環境省 (予定)

<CPD登録>

造園 CPD (申請中)

緑化・環境 CPD (申請中)

土木学会 CPD (申請中)

■開催にあたって

環境省は、種の保存法にもとづいて国内希少種に指定されているオオタカの指定解除の検討をはじめ、としています。これは、近年、個体数が十分回復したためという理由によるものです。しかし、オオタカの個体数が増加したとするならば、それは「猛禽類保護のすすめ方」などにもとづいて関係者がオオタカの保護に努めてきたことや、環境影響評価で生態系の上位種が大切であることの認識が増してきたことなどによるものであり、同時に保全対策技術が向上してきたことも大きな要因と考えられます。

それともなってもオオタカは自然保護のシンボルともされ、オオタカの棲む街づくりの動きもみられるようになってきました。これはオオタカを大事にしようとする動物観が育まれてきたことによるものでもあります。指定種の解除によって、このような動きが消滅して、個体数が再び減少することが危惧されます。さらに、指定種の指定や解除には科学的なデータが必要であることは言うまでもありません。

このようなことから、今般、この問題について幅広く議論する場が必要であると考えて、シンポジウムを開催することとしました。

■講演者と演題

中島 慶二 (環境省 自然環境局野生生物課長)

金井 裕 (公益財団法人日本野鳥の会 参与)

亀山 章 (公益財団法人日本自然保護協会 理事長)

辻村 千尋 (公益財団法人日本自然保護協会)

春田 章博 (公益社団法人日本技術士会 元理事)

NPO法人 NPO さとやま

種の保存法と指定種について

オオタカの生態と生息状況

オオタカ保護と動物観

オオタカ保護制度のあり方

オオタカの保全対策技術の進歩

地域環境の保全とオオタカ



2013年 **10月23日** (水) 18:00 開始 21:00 終了

明治大学駿河台キャンパス リバティタワー 地下1階 1001 教室 **入場無料** 17:30 開場

■申し込み

締切：10/18(金) ※先着 200 名
mail にて以下の内容をお知らせ下さい。定員に達しない場合は締め切り期限後も受け付けます。お問合せ下さい。

①お名前 (ふりがな), ②ご所属, ③E-mail

■申し込み先 明治大学 農学部 倉本 宣 [mail] kura@isc.meiji.ac.jp

■お問い合わせ 公益財団法人日本自然保護協会 03-3553-4101(代)



JR 中央線・総武線 東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 下車徒歩 3 分
東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅 下車徒歩 5 分
都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線/神保町駅 下車徒歩 5 分